

取組名	防犯教室による安全意識の啓発
取組の特徴	園児一人一人が視覚教材や防犯の約束を通して、安全に関する意識を再確認し、安全に行動しようとする力を養う。
学校名	下関市立黒井幼稚園

組 織 の 概 要

1. 取組の趣旨

本園では、保護者と地域の方が一体となって、一人一人の子どもたちが明るく・楽しく・安全に生活できるよう、幼児本人が自らの安全を守るための安全教育の推進を図る。

2. 取組のねらい

交通安全の約束や「いかのおすし」の約束を再確認することで自ら安全な行動がとれるようになる。

3. 内容

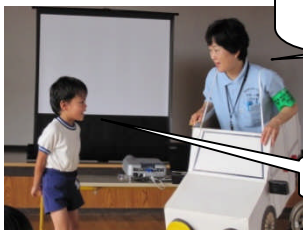
交通安全サポーターの方による交通安全の紙芝居と不審者に声をかけられた時の対処の仕方を実演して、指導してもらう。



交通安全のお約束、思い出したかな？
お約束は絶対に守ってね。

お菓子を買ってあげるから車に乗りなさい。

おばちゃんの友だちなんよ。家まで連れて帰ってあげるから乗りなさい。



助けてー！！



助けてー！！

◎よいこの5つの約束（防犯標語）

- い } … 行かない（知らない人にはついていかない）
- か } … 行かない（知らない人にはついていかない）
- の … 乗らない（知らない人の車に乗らない）
- お … 大声で叫ぶ（「助けて」と大きな声を出す）
- す … すぐに逃げる（怖かったら別の大人のいる方にすぐ逃げる）
- し … 知らせる（どんな人が何をしたのかを家の人に知らせる）

4. 実践成果と課題

1学期よりあらゆる場面を想定し、安全意識（交通安全やその他）の向上に向け、繰り返し指導してきた。標語“いかのおすし”の約束を知らせた後、実際に不審者に声をかけられたときの対応などを体験させながら子どもたちと約束したことで、安全に対する意識を高めることが出来た。今後も様々な状況や場面を想定した体験を通して、その場に応じた適切な行動が取れるよう安全教育の徹底を図りたい。

取組名	安全を考える教室
取組の特徴	園内の非常時対応訓練以外の外部講師を招いた安全教育
学校名	下関市立内日幼稚園

取組の概要

1. 親子交通教室

- 目的 交通安全について考え、社会や生活の中で意識するようになる
- 日時 平成22年5月20日(木) 10:00~10:40
- 対象 全園児親子・職員
- ねらい 交通のルールや決まりを知り、守るようになる (園児)
登降園における交通安全についてを知り、親子で守るようになる (保護者)
- 講師 下関市 交通指導員3名



2. 防犯教室

- 目的 防犯についてを考え、危険の予測・回避を意識するようになる
- 日時 平成22年9月27日(月) 10:00~10:40
- 対象 全園児・職員
- ねらい 防犯の約束『い・か・の・お・す・し』について知る
- 講師 長府警察署管内 安全サポート隊2名



取組名	防犯パトロール
取組の特徴	余田地区防犯協議会主催で余田少年少女パトロール隊が地区の安全啓発のため年3回パトロールを実施する。
学校名	柳井市立余田小学校

取組の概要

1 第1回 「余田地区少年少女パトロール隊結団式」 (7月20日)

- ・余田地区防犯協議会長・柳井警察署長のあいさつ
- ・余田小学校長 激励の言葉
- ・余田駐在所よりパトロールの注意
- ・余田少年少女パトロール隊 隊長 宣誓
- ・余田地区南方面へのパトロール



2 第2回 「防犯パトロール」 (9月1日)

- ・「交通安全に気をつけます」「知らない人にはついて行かない」「危険なところでは遊ばない」の3つの言葉を「隊長コール」「隊員コール」を交互に繰り返して、余田地区北方面をパトロールした。



3 第3回 「年末防火パトロール」 (12月24日 予定)

- ・火災の多発する年末に、団員が余田地区内をパトロールし、出火防止のため拍子木をカチカチと叩きながら「火の用心」を呼びかける。

取組名	防犯教室
取組の特徴	スクールガードの方や、スクールガード・リーダーの方とともに、不審者対応に関する防犯教室を行う。
学校名	周防大島町立久賀小学校
取組の概要	

○ 危機の想定・・・下校途中の道路で、不審者が児童に声をかけ、無理矢理連れて行こうとした。

○ 訓練の内容

1 不審者による声かけ

- ・なかよし登校班で下校している。
- ・道を尋ねた不審者（スクールガード・リーダーが役になる）が、児童の腕をつかんで連れ去ろうとする。

<パターン1>

- ・見守り隊（スクールガード）の方が近くにいない場合

<パターン2>

- ・見守り隊（スクールガード）の方が近くにいる場合

2 児童の対応

- ・大人の人に聞こえるように助けを求める。
- ・人の多い方へ逃げる。
- ・子ども110番の家などに駆け込む。



3 見守り隊（スクールガード）の対応

<パターン2>の場合

- ・すぐに駆けつけ、不審者に退去を求める。
- ・関係者に知らせる。

4 スクールガード・リーダーの方からの講評・指導

- ・訓練の様子について子どもたちの対応はよかった。
- ・最近は連れ去りだけでなく、写真を撮ったりするような不審者もいるので、気を付ける必要がある。
- ・普段から、地域の方やスクールガードの方々と挨拶をするなど、しっかりとよい関係を築いていくことが大切である。

○ 事後の児童の感想

今日、防犯教室がありました。私が気をつけようと思ったことは、大きな声を出すことです。あんまり大きな声が出せないなので、大声を出したいです。あと、他の家にすぐ入りたいです。（4年女子）

取組名	通学路危険箇所の点検
取組の特徴	児童の安全な登下校が出来るよう、学校、保護者、地域の方、関係機関と連携して通学路の危険箇所を点検し、改善策を検討する。
学校名	田布施町立麻郷小学校

取組の概要

- 日時 平成22年8月21日（土）
- 参加者 学校（教頭、交通安全主任）PTA（会長、副会長、環境部部长）
地域（防犯パトロール隊、麻郷地区補導委員会）
関係機関（麻郷駐在所長 麻郷公民館長） 計 14名
- 点検内容
 - ・4月に保護者に配布した通学路危険箇所（11箇所）を確認し、安全対策を検討する。
 - ・7月に保護者や防犯パトロール隊の方に通学路危険箇所の点検をしてもらい、新たに指摘があった箇所について確認し安全対策を検討する。



4 成果と課題

毎年、通学路の点検は学校とPTAが行っていたが、今回初めて、毎日児童の登下校を見守ってくださる防犯パトロール隊の方や補導委員会、駐在所長等にも参加して頂き、通学路の実態把握と安全対策に向けて具体的に検討することができた。

歩道で草が繁茂している箇所は、防犯パトロール隊の方が草刈りをしてくださったり、地区のクリーン作戦の時に作業していただくことができたりした。また、歩道が狭い箇所について、県土木にお願いして側溝にふたをする工事をしていただくことができた。

しかし、歩道の拡張や信号機、カーブミラーの設置などは、自治会、町や県行政との関係もあって早急な対応は難しい。次回は行政の方にも参加して頂き、より安全な通学路となるよう進めていきたいと考えている。

取組名	救急救命法講習会（児童・保護者）の取組
取組の特徴	児童・保護者に心肺蘇生法とAEDの講習を実施し、救急救命法やAEDの知識・技能の習得を図る取組。
学校名	光市立岩田小学校

取組の概要

AEDの学校設置に伴い、前年度まで保護者対象に講習を行ってきたが、児童にも体験講習をという保護者からの要望で、今年度は6年児童と全校希望保護者対象に行った。

1 目的 心肺蘇生法やAEDの体験講習を行うことで、かけがえのない命の大切さを実感し、誰もが心肺蘇生法やAEDの知識と技能を習得して安心で安全な学校づくりをめざす。

2 具体的な取組

(1) 日時 平成22年7月8日（木）
10:35～12:15

(2) 場所 岩田小学校体育館

(3) 取組の実際

6年生（40名）と保護者30名を対象に講習会を実施する。光地区消防組合消防本部東消防署員3名の指導により6班に分かれて心肺蘇生法やAEDの使用法を全員が体験した。児童や保護者は真剣に取り組み、命の大切さを実感しながら、意欲的に学ぶことができた。

(4) 児童の手作り新聞から抜粋

呼吸が止まるので一番多いのは、のどに物がつまるとプールなどでおぼれるということだそうです。心臓マッサージや人工呼吸を初体験！！まずは、心臓マッサージを体験しました。ぼくは、あんまり難しくないと考えてやってみると意外と力が必要で、押す速さなどがあって、難しかったです。人工呼吸もなかなか息が入らなくて難しかったです。

3 成果と課題

今までは、夏のプール当番の保護者を対象に実施してきていたが、実際に児童にも体験させたことで、児童たちが命の大切さやAEDの置き場所、使用法を理解することができたと思う。救急救命法の体験をすることで、自分の命は自分で守っていかなければならないことも実感したのではないかなと思う。児童たちには少し難しいかと思っていたが、全員一生懸命取り組み成果があったと思う。

課題としては、もう少し保護者の参加があればよかったように思う。来年度は、参加が多くなるよう呼びかけていきたい。



取組名	不審者対応の避難訓練と職員対象のさすまた取扱研修
取組の特徴	スクールガードリーダーと連携した安全指導（不審者対応）
学校名	宇部市立小羽山小学校

取組の概要

1 期日等

6月18日（金）避難訓練に合わせて、さすまた取扱研修を実施した。また、スクールガードリーダーの方々に児童の避難や職員の誘導について参観していただき、御指導を得る機会とした。

2 訓練の概要

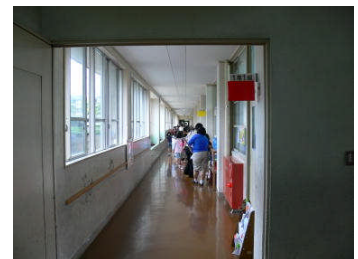
- (1) 不審者（職員が扮装）侵入・1年担任が発見
校内インターホンで事務室に通報
- (2) 不審者に接触・教室から離れた部屋へ誘導
- (3) 現場の職員では対応不可と判断
校内インターホンで事務室に連絡、応援職員急行
※さすまた取扱研修を実施
- (4) 校内放送で避難を指示、児童避難開始
- (5) 避難完了
- (6) 校長、スクールガードリーダーの方から避難訓練の講評・指導



さすまた取扱研修の様子

3 工夫した点

- (1) 本年度初めに設置された校内インターホンを活用し、不審者発見の通報等を行った。
- (2) 避難訓練の流れの中でさすまた取扱研修を実施し、臨場感や危機感のある研修とした。
- (3) 避難を指示する緊急放送は、不審者を刺激しないことや児童がパニックにならない配慮として、事前に指導した別の言葉で「不審者」「避難する」「体育館」等を伝えた。
- (4) 避難することの必要性を伝えるため、児童にさすまたの効果には限界があることを伝えた。
- (5) 避難する通路の安全を確認するため、曲がり角ごとに、通過した学級の担任から後方の担任へ「安全である」ことの伝達を行いながら避難した。
- (6) スクールガードリーダーの方から避難訓練の講評や安全についてのお話をしていただき、客観的な視点で指導を受ける機会とした。



教室から体育館へ避難



避難後、校長先生から



スクールガードリーダーの方から

取組名	学校・家庭・地域の連携による防犯活動
取組の特徴	「有小見守り隊」を含む「有小地域応援団」の活動を推進することで、犯罪のない地域作りにつとめている。
学校名	山陽小野田市立有帆小学校

取組の概要

1 日常の「見守り活動」の充実

- ・ 地域ぐるみでということを目指し、「有小見守り隊」を中心に「有小地域応援団」のボランティアの方の協力を得て、日常的に児童の登下校の安全を見守っている。
- ・ 発足以来、毎年4月に新規会員募集をし、平成22年5月1日現在、会員数は230名にのぼっている。
- ・ 交通教室への協力など学校安全行事に積極的に参加している。
- ・ 4月には、1年生の下校にあわせて、引率下校をしている。
- ・ 学期に1回、「集団下校の会」を実施し、その日は、児童とのふれあいを兼ねて、引率下校をしている。



2 犯罪抑止力のある地域づくり

- ・ パトロール中に着用する帽子、腕章、ジャンパーを作成し使用している。
- ・ 「巡回中」のマグネット式ステッカーを作成し、車の側面にはってパトロールをしている。
- ・ ほかに「有小地域応援団」の活動として、年に3・4回環境整備作業を行っている。この環境美化も、犯罪抑止に一役かっていると考えている。



3 成果と課題

本校は、幹線道路と河川道路に囲まれており、学校を完全に囲むフェンス等は設置されておらず、どこからでも校地内に入れる状況にある。防犯上は無防備な状況にあるといえる。

しかし、「有小見守り隊」の活動を含め「有小地域応援団」の活動が、「人は垣根」という考え方から、児童が「守られている」という「安心感」を感じることができているのは大きな成果といえるだろう。

今後も、「犯罪が起こりにくい地域づくり」という観点で、「有小地域応援団」の活動を、さらに充実・発展させていきたい。また、児童との交流の場を増やし、ボランティアへの感謝の気持ちを伝えていきたい。



取組名	全校児童による通学路の安全点検
取組の特徴	児童が通学路の安全点検を行うことにより、自分たちの視点に立った危険箇所の確認をするとともに、「こども110番の家」の位置を確認することにより、トラブルに巻き込まれそうになった時の緊急避難場所に気づくことをねらいとして実施した。
学校名	美祢市立城原小学校

取組の概要

1 取組の概要

新1年生が入学したばかりの年度始めに実施した。登校班ごとに担当の教職員がつき、『交通安全上の危険箇所はないか』『こども110番の家はどこにあるか』という2つの視点から、通学路の安全点検を行った。引率の教職員は、通学路を拡大した地図のコピーとデジタルカメラを持ち、児童が見つけた危険箇所の写真を撮って地図上にメモしていった。それを各地区ごとに安全マップにまとめ、校長室前の廊下に掲示した。

また、「こども110番の家」には、何時頃児童が訪ねていくかを事前に連絡しておき、できるだけ児童と家の人と顔合わせることができるようにした。訪問先には学校からの「こども110番の家依頼文書」を渡すとともに、児童が自己紹介をし、緊急時の避難場所についてのお願いをした。



足がはまりそうな溝があったよ。下をよく見て歩こうね。



ここが「こども110番の家」。危ない時は助けてくれるよ。

2 成果と課題

実施後、教職員から次のような反省や来年度に向けての改善意見が挙がった。

- ・ 年度始めに実施したのは、1年生に危険箇所を確認させる上でもよかった。
- ・ 「こども110番の家」の方が近くの子どものことが分かり、安心されたようだった。
- ・ 実際に児童と一緒に通学路を歩いたことにより、教師側も危険箇所が確認でき、今後安全指導を行う時に状況に即した具体的な指導ができる。
- ・ 田に水が入る等季節によって通学路の状況が変わる所もあり時期をずらしてこのような取組を行うとよい。

3 まとめ

1年生の通学路で民家が途切れる所があることに気づき、この取組後新たに「こども110番の家」の依頼をした。教師も車で通過するだけでなく、実際に歩いて通学路の状況を確認することが安全指導上大切であると感じた。



通学路安全マップ

取組名	安心してお留守番
取組の特徴	ヒアリング・ロールプレイを交えながら、留守番時の危険や、脅迫電話・いたずら電話などの対処法について考える。
学校名	美祢市立川東小学校

取組の概要

安心安全を守るプロである警備会社のあんしん教室を使って、昨年度は「安心して登下校」、今年度は「安心してお留守番の教室」を開いた。

○キーワード

いいゆだな

い…いえのカギを見せない。

い…いえのまわりをよく見る。

ゆ…ゆうびんうけを見る。

だ…だれもいなくてもたまたま

な…なかに入って戸締まり



上記のことについて5つのグループに分かれて、どうして、そんなことをするのかについて話し合った。

「だれもいなくてもたまたま」ということについても、子どもたちは、あいさつをすると、不審な人が子どもだけではないかもしれないとわかるから…などその訳についてグループでよく相談することができた。

次に、留守番中に不審な人から電話の応対について、指導者の対応例を参考にしながら、電話での対応演習を行った。

「宅配便です。いま、荷物を預かっているのですが、住所がはっきりと書かれてなくてこまっています。あなたの住所を教えてくださいませんか。」だまっていると、「では、お母さんとかわって教えてくださいませんか。」等…不審者役のアドリブを含む巧みな誘導に戸惑いながらも、適切に対応し、子どもたちは丁寧な言葉遣いで対応する大切さも学ぶことができた。



○ヘルメット・制服姿のガードマンのお話を緊張しながらも、全校児童16名は真剣に取り組み、「自分の身は自分で守る」その具体的な方法を知ることができた。

また、全員とはいかなかったが、実際に演習・再現することによって、学校外での危機対応の大切さを学び、防犯・安全意識を高めることができた。

昨年度より12月、3月など、職員が不審者役となり、保護者・地域の方々の協力を得ながら、実際の下校中に避難訓練を行っている。これからも、不審者対応をはじめ、いつ・どこで起きるか分からない事件事故の被害を防ぐため、適切な対応の仕方を再確認をすると同時に児童・教職員・保護者・地域の方々の防犯意識を高めていきたい。



取組名	不審者対応避難訓練
取組の特徴	一の宮小学校校舎配置に即した不審者侵入事案に対する避難方法を 知り、被害を最小限度に留めるための訓練
学校名	下関市立一の宮小学校

取組の概要

一の宮小学校は新下関駅周辺を校区とする町の中の学校ではあるが、立地的には住吉神社の裏側に位置し周辺の人通りは少ない。学校への入口は2ヶ所あり、外部から侵入しやすい配置になっている。そこで不審者侵入に備え、本校の特色であるオープンスペースという教室形状を生かした避難方法で訓練するとともに、男性教職員を中心にサスマタ等の使い方を学び警察到着までの時間を確保することを目的とする。

1 訓練の想定

- A 授業時間に不審者が校地内に侵入し、校舎周辺を徘徊中に発見された。
- B 下校時に不審者に遭遇し、追いかけられた。

2 日時

平成22年10月27日（水）13:45 ～ 14:25

3 訓練の進め方

訓練A

- ① すずめ門から侵入した不審者が事務室に寄らないまま昇降口方面に向かう。
- ② 行動をみて不審に感じた職員が校長に連絡し、110番通報をする。
- ③ 校内放送で不審者侵入時の「暗号放送」を行い、学年毎にブースに鍵をかけてこもり児童の安全を確保すると共に周囲の警戒にあたり、不審者を見つけ次第インターホンにて現在地を報告する。
- ④ 不審者の位置情報を含めた「暗号放送」を行い、男性職員がサスマタや児童机を持ち不審者の位置に向かい、警察到着まで不審者の移動を阻止する。
- ⑤ 警察官到着後、協力して不審者を取り押さえる。
- ⑥ 訓練終了後、現地にて警察署員指導の下、サスマタの使い方の実地訓練を行う。



一つの言葉を大きな声で唱えるとともに、周りの人に気づいてもらうために大声を出す練習もしました。

訓練B

不審者対応避難訓練終了後全校児童が体育館に入り、警察署員より学校外で不審者に声をかけられたり手を捕まれそうになったときにどうすればよいかの説明を受けました。安全サポート隊指導のもと、「いか・の・お・す・し」の言葉の意味を習い、一

- ① **い**か …… どんなさそいにもついていかない
- ② **の** …… 車やさそいにのらない
- ③ **お** …… 大声をだす
- ④ **す** …… すぐにげる
- ⑤ **し** …… まわりの大人に知らせる

取組名	親子で歩こう！通学路点検
取組の特徴	保護者が子どもと一緒に登校し、通学路の安心・安全マップを作成する。
学校名	長門市立深川小学校

取組の概要

1 ねらい

- 保護者が子どもと一緒に登校し、通学路の安全性を点検したり、登校の様子を把握し助言したりすることを通して、登校時の子どもの様子についての意識を高める。

2 実施日

- 平成22年10月20日（水） 朝の集団登校～昼食（全校）集会開始前

3 実施場所

- 通学路 体育館

4 実施方法

- 子どもの登校班と一緒に歩いて通学路を登校する。
- 登校中に「通学路点検地図」に気付きを記入する。
 - 子どもにとって、危険を感じられる場所（交通量の多い狭い道路、交差点、縁石等）
 - 通学路で見守りをしてくださる方々の立たれる箇所や子ども110番の家等
 - 子どもたちのあいさつの様子
 ☆次のことが十分にできていないときは、その場で助言したり模範を示したりする。
 - ・集合時刻が守られているか
 - ・危険箇所に十分注意をはらって登校しているか
 - ・見守りをしてくださる地域の方々や子どもどうしの朝のあいさつはきちんとできているか
- 体育館において、各自記入した通学路点検地図をもとに「拡大通学路点検地図（地区ごと）」に気付きを付箋紙に記入したり、シールを貼ったりする。
 - ・赤いシール…（2）の①に該当すること。
 - ・青いシール…（2）の②に該当すること。
- 感想を記入し提出する。



気付きや危険箇所等を「拡大通学路点検地図」記入



「安心・安全マップ」…深川川側沿いに観月橋に向けて、道幅が狭く交通量が多い。

5 保護者の感想（一部）

- 6年間で初めての試みで新鮮だった。朝の車が多い時間に登校しているんだなと改めて感じることも多かった。ボランティアで立ってくださっている方への感謝の気持ちが少し足りなかったなと反省している。（親も子どもたちも。）春と秋に一度ずつくらいこのような集団登校があってもよいと思う。
- 子どもの通学路の状況を改めて確認できてよかった。集団登校では比較的1列に並んで、班長さんが低学年の子のことを考え歩くスピードを調節されているのにも感心した。あいさつはする子もいますが、あまりしない子もあり、多くの子どもがあいさつができるようになると思う。道路の状況では道路脇の溝にふたがないところも多く低学年の子どもには少し危険に思えた。

6 成果と今後の課題

- 親子で登校することで、通学路の安全性や子どもの様子を保護者が具体的に把握することができた。（危険箇所を含む。）
- 保護者が、見守りの方への感謝の気持ちをもつことができた。
- できるだけ多くの保護者が参加できるよう全校集会の日を実施した。しかし、家庭の事情や校舎改築工事に伴い駐車場が確保できなかったこともあり、参加者が全家庭数の約12%と少なかった。
- 今回の気付きを各種便りに掲載することにより、安心・安全に対する保護者の意識を高め広げていく。
- 拡大通学路地図などを深川小学校ホームページで公表し、今後の登下校指導等に活かしていく。

取組名	夏休み前の交通安全指導
取組の特徴	事故が予想される長期休暇（夏休み）を前に、できるだけ地域の実情に即した危険予測学習（KYT）を全校児童を対象に実施した。
学校名	萩市立川上小学校

取組の概要

1 ねらい

事故が予想される長期休暇（夏休み）を前に、できるだけ地域の実態に即した危険予測学習（KYT）を実施し、身近に起こりうる危険に気付くことで、「危険、事故」を予測し、回避しようとするができるようにする。

2 内容と方法

- ・夏休み前の生徒指導の話として危険予測学習を全校児童を対象に行う。
- ・シートごとに、その場面に潜む危険について考え、発表させる。
- ・以下の資料は、実際に使用したシートの一部である。（山口県教育委員会HPより）



T字交差点の向こうに
友達が呼んでるぞ・・・



橋の手前では左右確認
(みのり橋前)



坂道での自転車は・・・



交差点で、自転車は・・・



見通しの悪い横断歩道では
十分な左右確認を！
(神崎商店前)



車から出る時は大丈夫？

3 考察と課題

今回の指導が奏功してか、幸い夏休み中の交通事故は一件もなかった。今回のように、地域の実情に即した危険予測学習を行うことは、児童自身に自分の命は自分で守るという意識をもたせる上で大切であり、積極的な安全指導として非常に重要である。

今後は、冬休み前などを利用して、不審者等に関わる生活安全、災害安全等についての危険予測学習（KYT）についても実施していきたいと考える。

取組名	「2010年 山口県総合防災訓練in平生」における学校避難訓練
取組の特徴	町全体の防災訓練の一環として、町内3つの小・中学校で地震を想定した避難訓練を実施
学校名	平生町立佐賀小学校

取組の概要

- 1 実施日 平成22年8月29日（日）
- 2 開始時刻 午前9時30分～
- 3 内容 地震を想定した避難訓練
 （山口県総合防災訓練が本年は平生町開催となったため、町役場の依頼を受けて実施。この日を全校登校日とした。主会場は別会場。小・中学校においては、学校内で地震を想定した避難訓練を実施）
- 4 訓練の実際
 - ・「緊急地震速報利活用の手引き（施設管理者用）Ver. 1.0」（気象庁作成）を参照して地震訓練用キットを利用した。
 - ・訓練そのものは、キットを利用した以外は通常の訓練と変わらないが、町全体で実施したことにより自治会ごとに避難訓練が実施された地域があったり、訓練の主会場に保護者が参加したりするなど、地域・家庭・学校が一斉に防災意識を高めるよい機会となった。
 - ・夏季休業終了間近の訓練であったため、安全に留意して新学期を迎えるなどの意識が高まったようである。



←担任が先導して安全に校外へ避難

校長先生から命の大切さ、訓練の意味 →
 についてお話。訓練についての講評。



取組名	防災避難訓練
取組の特徴	地元消防団と連携の下に行う消防訓練
学校名	防府市立野島小中学校

取組の概要

本校は離島にあり、火災・震災時等、緊急時における消防署員または警察（ともに島外）の駆けつけには非常に時間を要し、また高齢化率がほぼ70%に達していることから、緊急時には島内に住んでいる教職員も迅速な対応が必要となる。そこで本校では、島の消防団と連携して毎年、防災訓練を行っている。

実施にあたっては、島内の住民へ紙面および島内放送を通じて防災訓練の実施を事前に知らせるとともに、漁村センター（公民館）および漁協と連絡をとりながら行う。特に漁協は、海運会社（連絡船）の事務局があり、救急艇の出動や海運職員の助力、あるいは島内放送の依頼など緊急時の対応において連携の軸となっている。

また、本校には消防倉庫があり消火ホースや防火服が常備されており、校地内（グラウンド）にある消火栓にホースを連結して、消火活動を行うことができる。

今年9月29日に島の消防団と連携の下、防災訓練が行われた。訓練の前には、別室において、小中全児童・生徒に火災時の避難について教頭（防火管理者）から指導を行い、また火器類の使用についての注意の喚起を行った。訓練では消防団長から避難訓練の様子について気付きをいただくとともに、実際の消火訓練（中学生は全員ホースで消火練習）では実技指導を受けた。



消防団との対面・あいさつ



中学生の消火訓練



小学生も本気で敬礼！

離島、極小規模校、小中併設校という本校の特徴がある。

それぞれ、家庭にもどったときに日々の生活の中で、危険予測・危機回避に努め、適切な行動がとれるように学校の実情あるいは学齢に応じた教育を今後も展開していきたい。

取組名	保護者、地域と連携した登下校指導
取組の特徴	地域別の集団登下校を利用して、安全に対する意識の高揚を図る。
学校名	周南市立周陽小学校

取組の概要

本校は、従来より地区別の集団登下校を行っている。その集団場面の機会を利用して、様々な指導に当たっている。

1 集団登校の指導

教職員が分担して、毎月1日と21日に学校付近で指導が必要な場所や危険な交差点（9カ所）で挨拶を含め、交通指導をしている。地域の方との交流に努め、共に挨拶運動、安全指導を行い、事後指導が必要な場合は、担当者へ報告している。

地区委員（保護者）も分担して毎日、交差点等に立ち、交通指導をしている。スクールガード・ボランティアの方も毎日、立哨や自転車での巡回をしている。

2 1年間を通した指導計画

主な指導内容として次の項目が挙げられる。（安全指導のみ掲載）

- ・横断歩道での確認と安全な道路の横断の仕方
- ・雨や風の日の安全な登下校の仕方
- ・自動車の動きに注意した安全な登下校の仕方
- ・自動車と歩行者 など

3 集団下校時の指導

毎月1回、全校児童が登校班ごとに集合し、下校指導を行っている。

○避難訓練を兼ねた集団下校の会

- ・時刻を決めて教室を出て、黙って、早く集合する。

○スクールガード・ボランティアや民生委員の方との対面式

- ・年に1度ではあるが、下校時に来校していただき、児童への紹介を行っている。その後、児童と一緒に各方面に下校している。

○引率教員と110番の家を確認しながら、下校する。



地区委員の交通指導



民生委員との対面式



スクールガード・ボランティア

民生委員、地区委員と一緒に下校

4 成果と課題

集団登下校の機会を捉えて、挨拶だけでなく、安全面での様々な指導や交流の場となっている。今年度より、地区委員会、地区児童会終了後、保護者も集団下校の会に参加し、一緒に下校している。このことにより、保護者も学校で行われている安全指導の内容を共有できるようになった。地区委員会の活動やスクールガード・ボランティアの活動が継続的に行われており、犯罪被害や交通事故が1件も起こっていない。

昨年度コミュニティ推進協議会と作成した安全マップも掲示され、成果を上げているが、それぞれの団体への連絡が十分でなかったり、情報や意見交換の場が少ないのが現状である。また、協議会への出席が、学校の一部の教員に限られているので、フェイストゥフェイスの交流がもてていない。参観日など学校行事への案内や児童がお礼の手紙を送るなどの取組を通して、さらに親交を深めることが課題として残る。

取組名	地域安全マップ作り
取組の特徴	子どもたち・保護者・地域・教職員が、地域安全マップ作りに関わることで、子どもたちの危険予測や危険回避能力を高め、保護者や地域、教職員の意識改革を行うことができる。
学校名	山口市立八坂小学校

取組の概要

1 作成目的

- ①子どもたちが事件や事故に遭う危険を回避し、犯罪に遭う可能性を低くする。
- ②子どもたち自身が作成に関わることで、
 - 注意する場所を見つける目を養うことができる。
 - どんな場所でも危険を見つける力を養うことができる。
 - 前もって危険を回避する能力を向上することができる。
- ③教職員自身が地域を見て回るにより、安全意識や危機管理意識を高めることができる。
- ④子どもたちと地域の結びつきが強くなり、子どもたちを地域で守るという意識が高まる。

2 作成手順

親子でご家庭の周りや身近な通学路を見て回り、危険性について話し合う。

各家庭の流れ ↓

ご家庭の周りや通学路について、情報を地図に書き込む。

↓

地図（現場の写真）を学校に提出する。
（1学期末まで）

学校の教職員が現場を実際に見て回り、情報を追加し、まとめる。（夏休み）

↓ 学校の流れ

一斉下校時に、児童と地区担当教職員が通学路調査を行い、情報を確認する。
（9月8日実施）

更なる情報収集や情報の追加を行う。

安全マップにまとめ、PTA地区委員に検討していただく。

家庭や地域に配布し、情報の見直しや追加をしていただく。（2学期末まで）

安全マップを完成させ、配布する。（3学期）

安全マップの見直しを行う。（来年度以降）

書き込んでいただきたい情報

- ①生活安全に関するもの（防犯を含む。日常生活で起こる事件や事故等の危険性）
 - 事件や事故が起きそうなところ
 - 入りやすく、見えにくい場所
 - ひとけの少ない場所や建物 など
- ②交通安全に関するもの（交通事故の危険性）
- ③災害安全に関するもの（自然災害 地震・風水などの危険性）
- ④何かあったら、助けを求めることができるところ
 - 派出所
 - 子ども110番の家
 - お店
 - 公共施設 など



通学路調査より

3 作成を行ってみて

子どもたちの危険予測、危険回避能力を育成するためには、子どもたち自身が実際に地域を歩き、自分自身の目で危険な場所を探し、なぜ危険なのかその理由を考え、体感させることが重要である。その意味から、本校の取組は、大変意義があるものであり、地域や保護者と協力しながら、今後の完成に向け、全力で取り組んでいきたい。

取組名	KYT 危険予測学習の啓発について
取組の特徴	KYT の流れを教職員に紹介し、授業で取り入れることができるよう資料を作成した。
学校名	宇部市立東岐波小学校

取組の概要

本校では、月一回の職員による安全点検、月2回の保護者の協力員を中心とした登下校路の安全確認、また年一回の AED や防犯器具を利用した教職員研修など、安全教育・安全管理の充実に向けて取り組んでいます。この度の「犯罪のない安全で安心なまちづくり推進期間」では、特に KYT を取り上げました。

毎週、教職員に配布している生徒指導だより内において、KYT を紹介し、職員朝会内でその実施方法を紹介しました。資料として校内のいくつかの場所において写真を撮影し、教材として活用できるよう紹介しました。

授業は実施予定です。

以下資料（生徒指導だより22号より）

KYTについて

KYT【Kiken Yochi Training（危険予知トレーニング）】

手法

- 1 現状把握・・・どんな危険な潜んでいるのか。
資料を見て、気づいた危険を指摘させる。
- 2 本質追究・・・これが、危険のポイントだ。
指摘内容が一通り出揃ったところで、その問題点の原因などを検討し、整理する。
- 3 対策樹立・・・あなたなら、どうする。
整理した問題点について、改善策、解決策などを挙げていく。
- 4 目標設定・・・私たちは、こうする。
あがった解決策などを、討議、合意の上、まとめさせる。

合意結果は、掲示、発表などで、共通認識として情報を共有し、事前の危険回避を図る。このような活動を定期的に行ううちに、日常の事象をただ流してだけでなく、何か危険は潜んでいないかと考える習慣を、各自につけさせることができる。



資料1



資料2



資料3

取組名	高学年を中心にした「吉部地区G P隊」の活動について
取組の特徴	高学年の児童9名で、「吉部地区G P隊」を組織し、地域の自然の変化にふれたり、地域の防犯パトロールを兼ねたりしながら、「吉部地区ウォークラリーのコースづくり」を進め、地域との交流を深めている。
学校名	宇部市立吉部小学校

取組の概要

本校では、これまで高学年の児童を中心に、豊かな自然を大切にする活動（花の苗植え、農林業体験、地域の清掃活動など）を進んで行う『緑の少年隊』と、地域の防犯意識や交通安全への関心を高める活動（防犯パトロール）を熱心に行う『少年パトロール隊』を組織してきた。しかし、児童数の減少や授業時数の確保等により、十分な活動の場や時間を確保することが難しくなってきた。

そこで、昨年度より2つの隊の活動内容を一元化して、児童が生き生きと活動できるような環境づくりに努めてきた。

○【吉部地区G P隊】とは

『緑 (G) (グリーン) の少年隊』 + 『少年 (P) (パト) ロール隊』

○主な活動のテーマ

「吉部地区ウォークラリーのコースをつくろう」

○主な活動時間

☆毎週 火・木曜日 16:00～18:00 〈放課後子ども教室〉

★随時～時間を設定

○関連する学習・活動

ふるさと学習の一環として

地域の防犯パトロールを兼ねて

地域の自然の変化にも目を向けて

地域の方々への取材・調査

○具体的な活動内容

★一緒にウォークラリーを楽しむ対象として、宿泊学習や万倉留学等で交流を深めている「万倉小」、小規模校同士による小・小連携を推進していこうとしている「小野小」と交渉をしていく予定である。本年度も、3月上旬開催をめざして準備をしていきたいと考えている。

★第2回目の本年度は、「船木鉄道跡をめぐるながら」、コースづくりを進めていくことにした。

★高学年の児童は、昨年度の実践を踏まえて、これからの展開（地図づくり、パンフレットづくり、ポイントづくり等）への見通しをもちつつある。

★吉部地区を探検・撮影しながら、クイズやゲームに使えるような内容を選択・決定していく予定である。

○その他

・長い期間の実践であるので、児童たちの意欲や興味・関心を持続させていく工夫が必要である。

・3月上旬開催を目標にした、具体的な活動プランづくりをもっと綿密にしていくことにより、児童の主体的な活動を促していきたいと考えている。

取組名	地域と一体となった見守り活動と定期的なKYTの実施
取組の特徴	学校と地域の見守り隊とが連携を図った年間を通しての積極的な見守り活動の実施と、学級担任による定期的なKYTの実施
学校名	下関市立栗野小学校

取組の概要

1 地域と一体となった見守り活動

交通安全と防犯を含む生活安全をめざして、日々の見守り活動に取り組んでいる。見守り活動の主体は、地域の見守り隊の方々40人と学校職員である。また、栗野駐在所の方からも必要に応じて指導をいただいている。

児童の安全な登下校を確保するために、具体的に行っていることは以下のとおりである。

- ・見守り隊の方々への詳細な情報提供（児童の下校時刻等）
- ・見守り隊の方々の避難訓練等への参加
- ・見守り隊の方々と管理職との情報交換
- ・年間3回の見守り隊総会の開催

さらに、小規模校ならではの特色を生かして、見守り隊の方々と児童との人間関係の深まりをねらって、年度初めと年度終わりに対面式を実施している。

<見守り隊の方々との対面式>対面式を実施することで、見守り隊の方々は児童の保護者まで認識できるようになり、児童は見守り隊の方々に気軽に声をかけることができるようになった。



2 定期的なKYTの実施

毎月月初めに、施設の安全管理の徹底をめざして実施している安全点検と並行して、児童の危険予測・回避能力の向上をめざして、各学級ごとにKYTを実施している。山口県教育委員会から提供があったイラスト資料を活用して、いろいろな状況における安全の確保の仕方を、発達段階に応じて繰り返し指導している。どのような状況を指導の対象とするかについては、各学級の児童実態を踏まえ、各担任がその都度判断している。

毎月の指導を行うに従って、児童一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という意識が強まってきている。この意識の強まりは、交通教室での児童の様子等にはっきりと表れ、交通教室の指導をお願いした小串警察署の方からも非常にほめていただいた。今後は、マンネリ化することがないように注意しながら、さらに指導を進めていきたいと考えている。

<KYTの指導の様子>



<交通教室の様子>



取組名	「地域見守り隊（学校安全ボランティア）」の活動
取組の特徴	児童の登下校の安全を見守り、児童の安全意識を高め、安全な行動が身につくように日々活動を展開している。
学校名	萩市立明倫小学校

取組の概要

1 はじめに

平成17年度に栃木県と広島県で児童の下校時に発生した悲惨な事件を防止するための対策として、学校とPTAが各町内会や老人会、子ども会などの組織に働きかけて結成されたものが、『明倫見守り隊』である。

平成22年度、明倫見守り隊に登録されている保護者は8名、地域の方は78名となっている。

2 日々の見守り隊の活動

(1) 登校時

見守り隊の方の自宅付近の交差点や車の交通量が多い道路を中心に、見守り隊のジャンパーや帽子を身に付けて、安全旗を持ち、児童の登校時刻に合わせて、児童の様子を見ていただいている。中には、門まで児童を送り届けられる人もいる。



(2) 下校時

1年生の下校時には必ず見守り隊の方が、方面別下校するための集合場所に迎えに来られ児童と一緒に下校していただいている。また、自宅付近で下校する児童のため、横断歩道に立って指導していただいている人もいる。



3 見守り隊の方と学校との交流

(1) あいさつ運動

「相手より先に元気なあいさつをしよう」という教育目標の一つを、登下校時にもきちんとできるように、指導している。

(2) 感謝の気持ちを伝えるお手紙

3学期には毎年、「お世話になっている人に感謝の気持ちを伝えよう」という活動を全校で取り組んでいる。「見守り隊の方に感謝の気持ちを伝えたい」と思い、心を込めて書き綴った手紙を、見守り隊の方に渡している。

(3) 下校時予定表配布

見守り隊の方が必要な方に、月毎に下校予定時刻表をPTA校外指導部の役員を通して配布している。

4 明倫見守り隊との懇談会

「PTA執行部（校外指導部の部長と副部長含む）と学校、見守り隊の方と懇談会を開くことで、児童の登下校の安全のための働きかけのあり方を考えると共に、見守り隊の活動が円滑に展開されるようにする」という目的のため、本年度初めて懇談会の場を設定（夏休みの登校日）した。

5 PTAの協力



交通安全運動実施週間と学期はじめには地区毎に街頭指導を実施していただき、登校の様子を日誌で学校に報告してもらっている。

また、町内子ども会の実施日には町内で安全に過ごすための注意事項等について子ども達への指導のため、地区の役員の方に参加していただいている。